

個別施設計画(農業大学校古川教場)

策定年月日	R2.12.21
更新年月日	R6.8.21

1 対象施設・施設概要					
施設情報					
施設名称	農業大学校古川教場	所管所属名称	農業振興課		
公共施設等総合管理方針施設分類					
大分類	公共用施設	中分類	学校	小分類	大学校
主要建物概要					
構造	鉄筋コンクリート	用途	校舎建	建築日	1999/3/16
経過年数	26年	耐用年数	50年	目標使用年数	65年
運営方式	直営	管理者名称	農業大学校	全延床面積(㎡)	5,274
所在地	大崎市古川大崎字富国88				
2 計画期間					
計画期間は令和3年から令和12年までの10年間とする。					
3 点検・診断によって得られた個別施設の状態					
別添「保全点検結果報告書」のとおり					
4 当該施設の必要性					
設置根拠規定等	地方自治法第155条第1項, 156条第1項 農業大学校条例		必要性の有無	有	
業務内容	優れた農業の担い手となる人材の養成及び農業者の研修を行う				
必要性の判断理由	優れた農業の担い手となる人材の養成及び農業者の研修を行うため必要である				
5 施設ごとの今後の対策					
管理に関する基本的な考え方を踏まえた施設の管理方針	令和6年度現在で26年を経過している施設で、宮城県の優れた農業の担い手となる人材の養成及び農業者の研修の拠点となっている。 庁舎の老朽化も目立つものの、長寿命化の方針を取り入れて修繕工事を行いながら、適切な維持管理に努めている。3年に1度は営繕課による施設保全点検を実施し、その結果に基づき必要な対応を行う。点検・補修結果についてはデータを蓄積し今後の施設保全に活用を図る。 予防保全の考え方を取り入れ、劣化状況等に応じた周期的な改修等を図ると共に計画的な修繕・更新を行う。 目標使用年数は、宮城県公共施設等総合管理方針における推計条件を準用し、法定耐用年数の30%増である65年を目指す。検討中である「農業支援体制のあり方」における検討結果を踏まえた対応(施設の統廃合等)が見込まれる。				
施設間・対策間の優先順位の判断内容	点検結果に基づいて必要な箇所の修繕等を実施したが、付随設備の老朽化や要補修が目立ってきている。建物では屋根の補修や金属材(手摺や鉄柱)の整備を行っていないため、計画的・定期的に補修を行っていく。特に雨漏り・漏水を伴う部分については建物内部までの影響が大きいため早急な対応が必要である。 給湯ボイラーについては交換も検討されるが大がかりとなるので部品供給がある期間は不具合箇所を交換していく。 寮中庭については外観上、不具合がある。東日本大震災での破損したので計画的に修繕を行う。 オーバースライダーなど定期整備を必要とする部分は長寿命化のために定期的に対応する。 屋上ドレン周りについて樹木の葉や土砂堆積が見られるが、屋上への侵入が非常に困難であるため頻繁な清掃が出来ないことから、清掃の外部委託などを検討する。さらにドレン管内凍結防止のヒーターの故障も発見されたので定期的に交換を行う。 個々の詳細は別紙のとおり。				
6 対策内容、時期及び概算費用					
別添「中長期保全計画表」のとおり					

